教育だより【海士町教育委員会】

海士町の特色ある宿泊体験活動

近年、長期宿泊体験活動が注目され、県内でも実施する市町村が増えてきました。海士町では、教育委員会や中央公民館の主催で、小学校4年生の通学合宿、小学校5年生から中学校3年生を対象としたアドベンチャーキャンプ、中学校2年生の普段の生活学校と、特色ある宿泊体験活動が行われています。今回は、それぞれの活動のねらいと期待される効果を紹介します。

①海士町での実践紹介

◆通学合宿

《対象》　小学校4年生
《期間》　2泊3日
《ねらい》
○自分のことは自分で
　～自立～
○めざせ!ふるまい名人※
　～挑戦～
○地域の方との交流
　～交流～

『ふるまい通学合宿　プチ修行』

中央公民館で共同生活をしながら学校に通います。食事づくりやもらい風呂、星空観察、お寺でのプチ修行、地域の方との交流等の活動を行います。今年度は島前高校のレスリング部の生徒さんとの交流も行いました。

※『ふるまい名人』とは、まわりの人のことを考えて、思いやりの気持ちを持ち、自分のことは自分で考えて生活できる人のことです。

◆普段の生活学校

《対象》　中学校2年生
《期間》　6泊7日
《ねらい》
○炊事や洗濯などの日常の家事を行うことで、生活技術の習得を図るとともに、自分のことは自分で行う態度を養い、自立心を高める。
○家族への感謝の気持ちと家族の一員としての自覚を高める。
○集団生活を通して協力し合う大切さを学ぶ。

中学校の職場体験に合わせて中央公民館で共同生活を行います。職場体験で疲れた中で、毎日2時間の自主学習もしながら、社会人の生活を体験します。

◆アドベンチャーキャンプin あま

《対象》　小学校5年生～
　　中学校3年生
《期間》　5泊6日
《ねらい》
○忍耐力の向上
○連携力の向上
○自然との共生力の向上
○感謝の心を育む
（詳細はp14をご覧ください）

②宿泊体験活動が果たす役割と期待される効果について

文部科学省の各種調査から、自然体験が豊富な子どもの中には道徳観・正義感に富む子どもが多いなど、自然体験が子どもに良い効果をもたらすことが明らかになりつつあります。昨今特に指摘される子どもの対人関係面や意欲面での課題を考えると、特に自然の中での長期宿泊体験活動が効果をあげるのではないかと考えられています。（文部科学省ホームページより一部引用）

上記のように海士町における宿泊体験活動を整理してみると、学年ごとの縦のつながりを考えながら、『集団生活の中で協調性・自律性を育むこと』や『幅広い年齢層との多様な交流の機会を得ること』に重点を置いた活動が行われていることがわかります。

特に、次の項で紹介する「アドベンチャーキャンプin あま」は海士の大自然の中での宿泊体験や島内外の多様な人との交流を通して、子どもたちを育てていくという点で、海士の子ども達の健全育成に大きな役割を担っています。

（地域共育課　社会教育主事　藤野幹雄）

第20回 アドベンチャーキャンプ in あま

【期間】 7月27日(水)から
8月1日(月)

『**忍耐力**・・・困難に負けず最後まで乗り越える力』、『**連携力**・・・学校・地域・学年の違う人たちとチームワークを築く力』、『**自然との共生力**・・・自然と共に生きていく力』、『**感謝心**・・・メンバー、家族、スタッフへ感謝の気持ちを持つ』という4つの力を育むことをねらいとした、アドベンチャーキャンプ in あまを今年度も開催しました。

昨年度は台風の影響で、期間を短縮しての実施となりましたが、今年度は天候に恵まれ予定通りの5泊6日を東区の倉田海岸で実施しました。

今年度は、町内外から小学5年生～中学1年生の24名（町内16名、知夫村1名、隠岐の島町2名、本土5名）が参加し、期間中は4つの班に別れて活動しました。

子ども達は、期間中に**3つの大きな困難**と**1つの隠れ困難**を克服しながら、多くのことを体験しました。

1つ目の困難は、3日目にあるいかだレースです。1日かけて作成したいかだを実際に海に浮かべ、倉田海岸～長井の往復約1・6㎞を1日かけて航海します。

帰りの航海では、向かい風に苦戦しながらも、最後まで声を掛け合い全ての班がゴールしました。最長で往復約3時間半の航海を子ども達は乗り越え、子ども同士の距離もぐっと近づき、キャンプの後半に向けてチームワークを築きました。

2つ目の困難は、4日目のチャレンジプログラムです。このプログラムでは、子ども達のキャンプ地が2ヶ所に別れます。参加が3回以上の子ども達は、無人島の松島で活動しました。釣りを楽しみ、貝を餌にして20匹ほど釣りあげました。自分達で獲った魚介類を調理し「うまっ!」と言って食べる姿が印象的でした。参加が3回未満の子ども達は、倉田海岸でそれぞれの泳力に合わせて、防波堤からの飛び込みや浅瀬での活動を行いました。どちらの体験もキャンプの大きな思い出となったはずです。

一方で、この時期は慣れない生活で子ども達の疲れはピークに達していたと思います。子どもの中には、「帰りたい」とつぶやく子もおり、家に帰るとご飯があるありがたみや家族の大切さを実感していたように思います。

3つ目の困難は、5日目にあるキャンプファイヤーでの各班の出し物です。出し物の条件は、次の3つです。

①参加したみんなが楽しめる
②班のみんなが活躍する
③時間は7分以内

各班どれもよく考えられていて楽しい出し物となりました。出し物の中には、ゲームをして負けた班は、勝った班を褒めるというルールを考えたところがあり、キャンプを振り返りながら、お互いの感謝の気持ちを交換している姿に感動しました。

キャンプ期間中のトイレは、事前に掘っておいた穴に用を足します。このキャンプ名物のトイレで用を足すことが、子ども達への配付資料にも書いていない**隠れ困難**です。子ども達は、最終日に自分たちの手で、便に土をかぶせ自然に帰し、キャンプ地をあとにしました。

様々なことを体験し、乗り越えた子ども達は、初日とは見違えるほどたくましい顔になって、開発センターに帰ってきました。

子ども達には、その力を学校・家庭・地域で十分に発揮して欲しいと思います。スタッフ一同これからも応援しています。

（地域共育課　松尾昌臣）

集落支援通信３０

集落支援員活動報告

多井交流盆踊り

平成28年8月14日、数十年間行われていなかったという多井地区での盆踊りが、開催されました。集落支援員は盆歌、踊りの調査をお手伝いさせていただきました。

今年の盆踊りは、在住者と盆の帰郷者との交流を望んで企画され、その希望通り、そのとき多井にいた人のほとんどが参加しました。

日が沈み、提灯がぼんやりと照らす海岸で、賑やかにくどきが鳴りだすと、はじめは在住者で輪ができ、次第に人数が増えていきました。子どもはじっじやばっばの横に入って踊っていました。音につられてみんな家から出てきて輪に加わっていきました。

普段は地区では見かけない小さい子どもの姿に「やっぱり子どもがうろちょろしとるとええわい」「ほんとかわいいねえ」という声が聞かれました。子どもからお年寄りまで輪に加わっている姿に「いやあ、よかった」「やっぱり皆で〝踊る阿呆〟にならんとなあ」という声が聞こえました。

15年ぶりという帰郷者も「情緒があって素晴らしい」と感動していました。

出郷者とのつながりのために数年前から手紙を送り始めた多井地区ですが、今回の盆踊りの開催で、またふるさとへの愛が増えたのではないでしょうか。

集落支援員は今後も地区の活動を支援いたします。お困りごと、やってみたいことがあればご相談ください。

集落支援員からのお願い

今後の集落支援活動のため、地区の皆様にアンケートをお配り致します。地区での暮らしに対して皆様が抱えている疑問、希望、評価など、ご意見を教えてください。今後の活動の参考にしていきます。アンケートがお手元に届いた際は、是非ご回答ください。

しゃぼん玉名人になろう

7月18日にあまマーレでしゃぼん玉イベントを開催しました。町内の親御さんから要望があり、隠岐國学習センターのさとうももこさんが企画・運営しました。

始めは思う通りにしゃぼん玉が作れず苦戦していた子ども達でしたが、最後には大きくて長いしゃぼん玉が作れるようになりました。光を受けて虹色に輝くしゃぼん玉はきれいで、子ども達はしゃぼん玉作りに、親御さんはしゃぼん玉で遊ぶ子どもたちの姿に夢中でした。今後も皆さまからのイベントの持ち込みをお待ちしています。

あまマーレ

利　用　者　数

6月 497名／7月 604名

開　館　情　報

閉館日　木曜日

開館時間 10:00–17:00

※予約貸切は21:30まで
3名様以上でご利用可能
気軽にお問合せください
電話:2-2525

日々の集落支援員の活動を、インターネットで発信！
Facebookページ更新中！
www.facebook.com/ama14chiku

あまマーレのホームページができました！
貸切予約やイベント情報はこちらから
http://ama-mare.com/